

テレビおよび都市の言語の個人の言語形成に及ぼす影響

著者	馬瀬 良雄
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 1: 20(1980)
発行年月日	1980-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022340

へ第二回研究発表会の発表要旨（五四、一〇、一四）

テレビおよび都市の言語の

個人の言語形成に及ぼす影響

信州大学教授 馬 瀬 良 雄

この研究は次の二つの点を解明することを目的として進められた。

1. テレビの言語は、個人の言語形成にどのような影響しているか。
2. 都市の言語は周辺地域の言語に対して、極めて大きな影響を及ぼしてきたが、現在もなお従来のような影響を持ち得るか、またそれはテレビの影響とどのようなからみ合いを見せるか。

研究方法としては、①学校での共通語教育の影響という要因を考えに入れなくて済むアクセント、二十数語について調査が進められた。調査地点は長野市小田切。調査は昭和五十三年。

5.3年		3.6年		53年	36年
小89人	中57人	小166人	中102人	老10人	老39人
73.9%	81.2	37.3	36.1	28.2	29.9

年。市街地として長野市桜枝町が選ばれ全数調査が行われた。

この研究計画の立案に当って、調査のための周到な仮説が立てられ、その立場から地点・対象・調査語が選定され、また結果の分析が進められた。とりわけ小田切においては、昭和三十六年に小中全員（二六八名）と老年層三九名についての調査が行われていることが、この研究の基盤を不動にしている。

調査結果の一つだけを紹介しよう。

石・紙・学校・長野など十五語のアクセントが共通語化した数値は上表のようである。

十七年間の違い、年齢層別の共通アクセント化の度合いが鮮明にわかる。調査の目的からみた精密な分析・考察が発表され感銘が深かった。

（青木 記）